

地域医療の現場から



# 地域住民に信頼される 病院を目指して

小国公立病院 事務局長 児玉 秀次郎

**病院の概要**

- 設立年：昭和 28 年 4 月
- 許可病床数：75 床
- 入院基本料：13 対 1
- 職員数：75 人（医師 7 人、看護師 45 人）

併設 おぐに老人保健施設 33 人  
訪問看護ステーション 3 人  
職員数総計 111 人（臨時 19 人含む）  
別に委託職員 26 人



## 北里柴三郎博士のふるさと、緑豊かな“小国郷”

小国公立病院は、小国町と南小国町（小国郷と呼ばれている。）とで設立された県内では数少なくなった一部事務組合の病院です。

小国郷は九州のほぼ中央部、熊本県の最北端で、阿蘇外輪山の外側にあり筑後川の上流に位置し、標高は 300m から高地では 1,200m あり起伏が激しく、一部は阿蘇くじゅう国立公園に属しています。面積は両町合わせて 253 km<sup>2</sup> と広大で、約 80% が山林原野で占められています。

全国的に有名な黒川温泉をはじめ杖立温泉・わいた温泉郷・満願寺温泉・田の原温泉などたくさんの温泉地や、また「熊本緑の百景」の第 1 位に選ばれたこともある瀬の本高原、テレビ CM で知られる鍋ヶ滝など緑と水のきれいな観光資源に恵まれた、小国杉などの農林業を主産業とする農山村地域です。

また、日本が誇る世界的な細菌学者北里柴三郎博士は小国町北里地区に生まれ、それにちなんで建設された研修宿泊施設『木魂館』や併設の食事処『北里バラン』、温泉施設『博士の湯』などがあります。



北里柴三郎博士の生家。博士から小国町に寄贈された北里文庫（図書館）などとともに、復元・改修され、博士の偉業をしのぶ記念館となっている。



北里柴三郎記念館の入り口に建てられた博士の胸像

## 小国郷唯一の拠点病院として多様な役割を担う

当院は昭和 28 年 4 月に小国町立病院としてスタートし、昭和 36 年に南小国村が加入して小国町外一ヶ村公立病院組合・小国公立病院となり、その後南小国の町制移行に伴い昭和 45 年に小国町外一ヶ町公立病院組合・小国公立病院として現在に至っています。

昭和 60 年、老朽化に伴い全面改築を行い結核及び伝染病床を廃止して、一般病床 80 床で新たにスタートし、平成 11 年におぐに老人保健施設（50 床・デイケア 30 人）及びおぐに訪問看護ステーションを開設した際に病床を 5 床減らして、現在は 75 床となっています。

診療圏は小国郷、産山村、大分県の中・上津江村で約 14,000 人、高齢化率は 33%です。

20 数年ほど前までは開業医と併せて 9 つの病医院がありました。開業医の先生方の高齢化に伴い閉院・縮小が相次ぎ、当院がほとんど唯一の病院となったため、診療以外にも小・中・高の学校健診・保育園健診・乳幼児健診・施設の健診及びワクチン接種等も当院が行っています。また、疾病予防のため小国町・南小国町が補助金を出して行っている人間ドックやインフルエンザ・子宮頸がん予防接種等にも積極的に取り組んでいます。

## 充実した診療科とそれを支える医師の存在

小国郷は高地のため冬は積雪量が多く交通止め等の交通規制があり、阿蘇の外輪山を下って行けない孤立した状態になることが度々あり、小国郷住民にとって診療科の充実した病院、また、救急告示病院である国保直営診療施設の小国公立病院へ寄せる期待は大きく、郷内の大半の患者が通院しており、地域医療の中核としての役割を果たしています。

ベッド数は 75 床ですが、診療科は内科・外科・脳神経外科・小児科、非常勤で整形外科・循環器科・産婦人科・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科・泌尿器科・もの忘れ外来（精神科）と 12 科あります。これだけの診療科を維持できているのも、熊大医学部附属病院の各医局の教授をはじめ多くの先生方が小国郷の医療情勢にご理解をいただき医師の派遣を行っていただいていることによるもので、改めて感謝を申し上げます。

## 今後も住民や観光客の生命を守る病院であるために

当院においても医師不足の問題は深刻な状況となっています。平成 18 年度までは常勤の内科医師は 4 名いましたが平成 19 年度に 2 名減となり、さらに 21 年度は残っていました 2 名の医師も疲弊を理由に退職することになりました。内科医師不在では病院としての機能が果たせなくなるため、県から自治医大の医師を 1 名、熊本日赤病院の医師を 3 ヶ月交代で 1 名、常勤医師として派遣していただいている状況であり、早急な医師の確保が急務となっています。

経営状況は、21 年度に公立病院に関する財政措置として交付金が増額されたことに伴い、2 年続けて黒字決算となっています。しかし病院も築 27 年が経過し建物の老朽化、空調機器の劣化等が生じており、それに伴う改修工事、医療機器の更新、また数年後に稼働予定のオーダリング・電子カルテ化に向けてプロジェクトチームを立ち上げる段階にあり、今後維持管理費・設備投資費にも相当の金額が見込まれるため、医療の充実と併せて経営のかじ取りをしっかりと行わなくてはならないと考えています。

今後も「小国公立病院の基本理念」を念頭に職員一同、小国郷唯一の拠点病院として医療水準の向上を図り住民の生命と健康を守るとともに、小国郷を訪れる観光客の方々が安心して宿泊・観光できる医療体制づくりに取り組んでいかなければならないと考えています。

### 小国公立病院の基本理念

1. 地域中核医療機関として、医療保健福祉の増進及び連携に努めます。
1. 患者様の人権を尊重し、患者様の立場に立った医療に努めます。
1. 職員は、医療人としての自覚をもち、常に質の高い医療サービスを提供します。
1. 地域住民の皆様信頼される病院を目指します。

